市立幼稚園の今後についての説明会　意見・質問及び教育委員会としての考え方（令和8年7月2日　小槌幼稚園開催分）

番号	項目	意見・質問	教育委員会としての考え方
1	閉園後の跡地活用について	この幼稚園は、駅にも近く、図書館や神社もあり、非常に良い環境にあります。 閉園後も、こどもたちや地域のために有効活用できるような施設になるのでしょうか。	跡地の扱いについてご心配の声があることは認識しています。ただし、現時点では閉園は正式に決定したものではなく、今後条例案を議会に提出する段階であり、跡地利用について具体的には決まっていません。今後、教育委員会だけでなく、市長部局も含めて協議し、検討していきます。 当該施設が避難所として位置付けられていることや、地域のかたに利用されている面も踏まえて検討します。
2	幼稚園の選択肢が減ることへの懸念について	幼稚園は毎日の送迎が必要であり、通う園が遠くなると家庭の負担が大きくなります。 保育所ではなく、家庭でこどもを見守りながら育て、その中で幼稚園に通わせて社会性を身に付けさせたい家庭もあります。そうした家庭の選択肢が少なくなることに不安があります。 在園児や入園希望者がいるにもかかわらず閉園を進めるのではなく、入園希望者がゼロになってから閉園を検討してもよいのではないでしょうか。 少子化対策が求められている中で、幼稚園を廃止していくことは、子育てを頑張ろうとする家庭の意欲をそぐのではないでしょうか。 行政として、1人でも取り残されるかたがいるのであれば、その点を大切に考えてほしいです。 また、説明資料のデータを見ると、園児数が減少していることは分かりますが、これは少子化に加え、幼稚園を希望する人の選択肢が少なくなってきたことも影響しているのではないでしょうか。保育所に行かざるを得ないという選択を強いているようにも感じます。	幼稚園が遠くなることについては、心苦しく思っていますが、そういったことにも配慮し、圏域に1園は残すという考えです。 最後の1人まで、というお気持ちは受け止めますが、一方で幼稚園以外にも認定こども園や保育所などさまざまな就学前施設があり、多様な選択肢全体としてこどもたちを育て、支えていく必要があります。 本市ではこれまで他市と比べても、かなり少人数になっても公立幼稚園を維持してきた経緯がありますが、ここまで人数が減った極めて少人数の環境が、集団生活や成長の面で本当に望ましいのかという観点についても、このたび学校教育審議会で議論をいただいたところです。 また、単に人数が減ったからということだけではなく、本市全体の就学前施設の維持・向上のために市立幼稚園が果たすべき役割・機能を踏まえて、どのような配置が適切かを考えこのような答申をいただいたと考えています。 一方で、市としては公立の認定こども園も整備をしてきています。認定こども園は、幼稚園と保育所の機能を併せ持つ施設であり、共働きでない家庭も1号認定として教育を受けることができ、共働き家庭は保育も利用できる施設です。このような取組も含め、これまでも全体としてこどもたちや家庭のニーズに対応できるよう進めてきたところであり、今後も市全体で子育て支援に取り組んでいきたいと考えています。
3	住民意見を議会へ伝えることについて	9月に議会へ提案されるのであれば、案だけではなく、今回のような住民や保護者からの意見も併せて示してほしいです。	保護者や地域の皆様に説明会を実施していることは議会にも伝えています。説明会でいただいた意見についても何らかの形でお示しすることを考えています。
4	認定こども園の受け入れ状況について	認定こども園について、保育所利用のかたが増え、実際には幼稚園枠のこどもが入りにくい状況になっているのではないかと聞きました。 例えば、閉園対象園の在園児や入園希望者が認定こども園を希望した場合、希望は聞いてもらえるのでしょうか。	公立認定こども園の1号認定、つまり幼稚園部分の定員については、現在、定員が埋まっている状況ではないため、希望いただくことは可能であると考えています。

市立幼稚園の今後についての説明会　意見・質問及び教育委員会としての考え方（令和8年7月2日　小槌幼稚園開催分）

番号	項目	意見・質問	教育委員会としての考え方
5	距離や通園負担への不安について	この地域に住んでいると、距離的な面で現在の幼稚園が非常に通いやすいです。 先生もこどもたちのことをよく考えてくださり、教育や遊びにも一生懸命取り組んでくださっています。そうした環境を続けていただきたいです。 今回の話を急に聞いたので、もう少し時間をかけて考えてもらえないでしょうか。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、今は特に園児数が少ない時期ではないかと思います。もう少し長い目で見てほしいです。 近くに幼稚園があることは安心感につながります。山手の地域など、中学校区で見ると範囲が広く、実際の通園には負担があるのではないでしょうか。 また、認定こども園に移行した園もあるのであれば、こちらもそういう形で残すことはできないでしょうか。 地域のかたへのアンケートなどを行った上で決定されたのでしょうか。決まってから意見を聞かれても、変更できないのではないかという不信感があります。	距離的な点については、できるだけ配慮する形として、中学校圏域ごとに1園を残す考え方としています。 公立幼稚園のことを高く評価していただき大変ありがたく思います。今後は市立幼稚園の教育のよさを市全体で受け継いでいきたいと思っています。 こどもたちにとって最も良い環境を考えた場合、人数が非常に少ない状態で続けていくことが、教育やこどもの育ちの環境として望ましいのかという課題があります。 学校教育審議会では、集団の中で友達との関係を築くこと、意見の違いを経験すること、葛藤を乗り越えることなど、こどもたちが成長していく上で必要な環境について議論いただきました。 通園のことも踏まえ、園児数だけでなく、各中学校圏域に1園を残すという今回の答申につながったと考えています。 また平成30年の「あり方」のときは、保育所の待機児童対策の観点から、公立の認定こども園の新設や民間保育所、こども園の整備を含めて、幼稚園、保育所の統合、再配置を行いました。今は保育ニーズに対しても一定受け皿が充足しており、新たに認定こども園として残すという考えはありません。 アンケートは実施していませんが、保護者の代表や地域のかた、公募の市民委員なども入っていただいた学校教育審議会の答申を受けて判断をしています。また、こうして説明会を通じて直接皆さまのご意見を聴き、可能なところは反映させていきます。
6	園児数を増やすための取組について	園児数が減らないように、これまでどのような努力をしてきたのでしょうか。例えば3歳児保育を広げれば、入園を希望する家庭が増えるのではないでしょうか。	3歳児保育については、岩園幼稚園で実施しています。開始当初は定員を上回り、抽選となることもありましたが、現在は定員に満たない状況です。また、市立の認定こども園をはじめ私立施設でも3歳児保育を実施しており、市全体としては受け皿が充足しているので、市立幼稚園で3歳児保育を広げる考えはありません。 園児数を増やす取組としては、全園での預かり保育の実施、未就園児向けの取組、園庭開放、幼稚園行事への参加機会の提供などを行ってきました。地域のかたに幼稚園を知っていただく機会を設けてきましたが、参加人数は年々少なくなっているのが現状です。

市立幼稚園の今後についての説明会　意見・質問及び教育委員会としての考え方（令和8年7月2日　小樋幼稚園開催分）

番号	項目	意見・質問	教育委員会としての考え方
7	当事者がいることへの配慮について	実際に公立幼稚園へ通わせたいと思っている家庭があります。人数が少ないからという理由で閉園するのではなく、少人数保育を希望する家庭の選択肢も尊重してほしいです。 少人数保育が必ずしも悪いわけではなく、その環境を望む家庭もあります。園がなくなると、その選択肢自体がなくなってしまいます。 遠い園に通うことになれば、通園中の事故や負担も心配です。最後の１人まで切り捨てないでほしいです。	少人数が必ずしも悪いということではなく、こども一人一人の特性によって、適した環境は異なるということは理解しています。そのため、本市では、少人数であってもこれまで市立幼稚園を5園維持してきました。他市と比較しても、ここまで少人数の園を継続してきた自治体は多くないと認識しています。 今回も、単に経済的な理由や人数が減ったという理由だけで判断するのではなく、こどもたちにとってより良い環境とは何かという観点から、学校教育審議会で議論いただきました。 通園路の安全確認など、ソフト面での努力をしていきたいと考えています。 また、市全体として、こどもの受け皿が不足しないよう、公立・私立、幼稚園、認定こども園、保育所など、多様な選択肢を残していくことを重視しています。
8	地域への事前説明や意見聴取について	議会に諮る前に、地域への説明や意見聴取は行ったのでしょうか。今回の説明会で初めて知った地域の人も多いです。地域のかたが何も知らない中で、決まっていくように感じます。 こどもの数の推計についても、将来は変わる可能性があります。過去にも小学校の児童数見込みが実態と異なった例があります。少子化対策が進めば、こどもが増える可能性もあります。今の見込みだけで簡単に判断してよいのでしょうか。 また、この場所は駅にも近く、こどもを預けて仕事に行くという点でも立地が良いです。幼稚園という形でなくても、こどもを預かる施設として残してほしいです。	昨年度末に学校教育審議会からの答申を受け、このたび内部で案をまとめたところです。今月、保護者、地域の皆様への説明会をこのような形で順次実施し、直接ご意見をお聴きしていきます。 たしかに児童数や利用ニーズの見込みは難しい面があり、過去に見込みと実態に差が出た例があることも認識しています。そのため、市では一定期間ごとにこども・子育てに係る計画を見直し、アンケートやニーズ調査を行いながら、施設の整備状況や待機の有無などを確認しています。 最新の計画では、仮に想定より利用が上振れした場合でも、施設数としては十分に足りている状況と見込んでいます。そのような中で、市民の皆様の税金を投入して就学前施設として維持していくのは難しいです。
9	保育所・一時預かり・家庭で育てたい家庭への支援について	保育所に入るためには早い段階から入園しなければならない状況があります。本当はこどもと家にいたいのに、後から保育所に入れるか分からないため、早めに預けざるを得ない家庭もあります。 一時預かりについても、登録していても実際にはなかなか利用できず、必要な時に預けられないと感じています。 働くことを前提とした制度が多く、家庭でこどもを育てたいというニーズが十分に拾えていないのではないでしょうか。 現在の幼稚園は教育内容もよく、先生も熱心であり、通わせたいと思っています。閉園ではなく、例えば0歳から2歳の受け入れなど、別の形で活用できないでしょうか。	保育ニーズについても平成30年の「あり方」において、市立認定こども園2園の新設や民間の保育所、こども園の整備を含めて市全体として整理し、必要なサービスの受け皿は整備してきました。今は保育ニーズについても一定充足している状態です。現段階で0～2歳の受け入れ施設を増やすことは考えていませんが、さまざまな家庭への子育て支援施策については市全体として考えていきます。

市立幼稚園の今後についての説明会　意見・質問及び教育委員会としての考え方（令和8年7月2日　小槌幼稚園開催分）

番号	項目	意見・質問	教育委員会としての考え方
10	残る幼稚園の役割と公立幼稚園の今後について	今後、残る3園を充実させていく考えなのでしょうか、それとも流れに任せてさらに減っていってもよいと考えているのでしょうか。 資料にある今後の幼稚園の役割について、私立幼稚園でも実施しているような内容が多く、公立幼稚園を存続させていくための強いアクションプランには見えません。 公立幼稚園の強みは、小学校とのつながりがあり、こどもたちがスムーズに小学校へ進めることだと思います。具体的にどのような取組を考えているのでしょうか。	残る3園をさらにどうしていくかという案は現在持っておりませんが、今後はこども園や保育所も含めた市内の就学前施設全体として、あり方を検討する必要があると考えています。 「架け橋期コーディネーター」は、残る3園を拠点として、小学校と隣接している強みやこれまで市立幼稚園で実施してきた取組を活かしながら、小学校との架け橋となる役割を担うものとしています。年長児から小学1年生までの2年間をつなぐ「架け橋カリキュラム」や指導計画を作り、就学前施設に通うこどもたちが小学校へ上がる際に戸惑いや困りごとがないよう、支援していくことを考えています。 これは公立幼稚園に通うこどもだけが対象ではなく、市内全域の就学前施設に対してアプローチしていくものです。これまで市立幼稚園は、小学校と密に関係を築き、研究や交流を行ってきました。その蓄積を生かして、民間施設も含めて小学校とのつながりをつくっていきたいと考えています。 小学校には、学校によっては40か所程度の就学前施設からこどもたちが入学してくる場合もあります。そうしたこどもたちがどこの就学前施設に通っていたとしても、戸惑わず、小学校生活を楽しみにできるよう、なだらかにつなげていくことが重要であると考えています。
11	スケジュールや決定過程について	今回の話は急であり、地域のかたに十分知らされていないように感じます。もう少し時間を設けて考えてもらうことはできないでしょうか。 ゴールが決まっているように感じます。変更の余地はありますか。	ここまで少人数になっている状況を踏まえ、こどもたちにとってという観点から考えた場合、先延ばしにすることで、こどもたちの学びや生活の基盤づくりが遅れてしまう面もあります。また、少人数すぎると集団教育が難しくなることや、架け橋期の取組を進めるため、早い段階で方針を示す必要がありました。加えて、2学年が交流できる可能性を残すタイミングとしました。学校教育審議会の答申を踏まえ、速やかに実施する必要があると考えこのスケジュール案としています。 今はこの案について説明し、意見をいただいている段階です。このあと最終的には9月に議案として提出し、議会に諮る流れになります。

市立幼稚園の今後についての説明会 意見・質問及び教育委員会としての考え方（令和8年7月2日 小樋幼稚園開催分）

番号	項目	意見・質問	教育委員会としての考え方
12	閉園後の施設活用と、これまでの園児数確保の取組について	閉園後、施設をどのように活用するのでしょうか。 また、過去に園が減った際にも、園児数を維持するための取組があったと思いますが、どのような取組をしてきたのでしょうか。 園として努力してくださっていることは分かりますが、保育所に預けている家庭は、そもそもこどもと一緒に幼稚園へ行く機会がありません。その結果、幼稚園を知る機会が限られてしまい、利用者が減っているのではないでしょうか。 「取組をしたが、人数が伸びなかったので園は不要」という結論になると、原因の捉え方が違うのではないかと感じます。	閉園後の施設活用については、現時点で具体的に決定しているものはありません。避難所としての役割をもっていることや地域の皆さんの利用の状況も踏まえ、教育委員会だけでなく市長部局とも協議して決めていきたいと考えています。 園児数確保の取組としては、これまで岩園幼稚園での3歳児保育、全園での預かり保育、未就園児向けの取組、園庭開放、行事への参加機会の拡充などを行ってきました。 以前の「あり方」により5園体制となったときにも、公立幼稚園が子育ての拠点となるよう、園庭開放の回数を増やしたり、幼稚園で遊ぶ機会を設けたりしてきました。ただし、近年は参加されるお子さんの年齢が低くなっていたり、育児休業中の方や乳児の参加が増えていたりする一方で、幼稚園入園直前の年齢のお子さんの参加は減っている印象があります。 園児数減少の背景として、共働き世帯の増加や幼児教育・保育の無償化により、保護者の選択肢が広がったことがあると考えています。加えて、こどもの出生数自体も大きく減少しています。以前は1学年で約800人いた時期もありましたが、近年は500人を下回る、あるいは400人台となるなど、こどもの数自体が減ってきています。 そのなかで、市民の皆様の税金である予算や人的な資源を市立幼稚園に来ているこどものためだけでなく、市のこどもたち全体のためにどう活用すべきかということを学校教育審議会の中でも議論していただいたところです。
13	過去の閉園・再編の経緯について	十数年前にも閉園の話が出たと聞いています。当時は園児が多かったにもかかわらず、なぜ閉園の話が出たのでしょうか。	当時は、保育を希望しても預け先がない待機児童の問題もあり、市として就学前施設全体をどう考えるかという中で議論していました。 その際にも学校教育審議会を設置し、市立幼稚園は各圏域に1園から2園を残すという考え方が示されました。その答申を踏まえ市としてはいわゆる「幼保のあり方」として市立の認定こども園の新設や私立の保育所・こども園の整備とあわせて市立幼稚園は5園が残りました。 その後約10年が過ぎるなかで園児数がさらに少なくなり、1学年の人数が1桁となっている園もある中で、市立幼稚園の今後について改めて考える必要があると判断し、このたび学校教育審議会に諮問したものです。

市立幼稚園の今後についての説明会　意見・質問及び教育委員会としての考え方（令和8年7月2日　小樋幼稚園開催分）

番号	項目	意見・質問	教育委員会としての考え方
14	0歳から2歳児の受け入れ等、別の活用への要望について	この場所で0歳から2歳児の受け入れなどができれば、子育て世帯にとって大きな支えになるのではないでしょうか。 第3子の出産を考える際にも、近くに幼稚園や預け先があるかどうかは大きな要素になります。施設も環境も良いですし、別の形でも良いので、こどもに関わる施設として残してほしいです。	保育ニーズについても平成30年の「あり方」において市全体として整理し、必要なサービスの受け皿は整備してきたため、現段階で0～2歳の受け入れ施設を増やすことは考えていません。今後の施設や跡地の活用については現時点では決まっていませんが、今後さまざまなご意見を踏まえて市長部局と一緒に検討していきます。